

月刊

地域保健

12
2008

●FACE2008

国立保健医療科学院公衆衛生看護部長

成木弘子さん



●
特集

見えてきた!
特定健診・保健指導の
現状と課題

FACE
2008

国立保健医療科学院
公衆衛生看護部長

成木弘子さん

「思い」を科学に

課題は評価システムの構築と保健師活動の理論化

東北大大学に移られた平野かよ子前部長の後任として、10月から国立保健医療科学院公衆衛生看護部長に着任されたのが成木弘子さん。前職の京都大学教授時代をはじめ、大学勤務のときには一貫してヘルスプロモーションの研究を続けて来られました。看護理論室長も兼任する気鋭の理論派である新部長に、保健師活動の方向についての見通しと、公衆衛生看護部長としての抱負を語っていただきました。

計画の段階から評価を組み込んだシステムを

—よく言われることですが、今まで保健師はなぜその存在価値を積極的にアピールしてこなかったのでしょうか？

成木 それは古くて新しい課題ですね。

保健師は住民の力を引き出すことを目指して活動してきたので、自分たちはできるだけ背後にいて住民が「自分の力でここまでやった」と思うことを良しとしてきました。でも、保健師が黒子に徹する時代はもう終わつたの

かもしれません。

今は活動成果をアピールしていくないと、保健師の機能がより強く求められている中で、役割を市民に伝えられず、地域でその機能が十分発揮できなくなつたらどうなるのか。そういう危機感はあります。

—アピールをするにあたって、大切なことは何でしょうか？

成木 この問題は、今さかんに言われている「評価」と密接に関連していく。長いスパンでみれば保健師活動が

地域によい変化をもたらしてきたのは確実ですが、活動の評価システムがないところでは実施してきたので、変化を目に見えるかたちでとらえきれていません。そのため、客観的なデータとして第三者にアピールすることが難しくなっています。

ア

ウトプット評価を重視するようになったのは最近のこと、従来は健康教室への参加人数などのプロセス評価が中心でした。本当に保健師活動の効果があつたのかという評価は、社会的にも強くは問われてこなかつたのです。人々の行動や習慣は複雑な要因によって作られているので、それに関わる保健師活動の評価はとても難しいところがあります。でも、考えようによつてはそれほどでもありません。活動を始める前に「成果を何で測るのか」を決めておくことは比較的簡単にできるからです。評価の指標は腹団やヘモグロ

p8

特定健診・保健指導の実施状況と課題

厚生労働省保険局 国民健康保険課

掛川秋美（在宅医療・健康管理技術推進専門官）

p20

2年かけた準備が奏功

～北九州市の取り組み～

北九州市保健福祉局 健康推進課 国保健診係主任 肥塚美由紀（保健師）

p36

一体的に成人保健事業を取り組める体制づくり

～倉敷市保健所の取り組み～

倉敷市保健所 健康づくり課 健康増進センター 榎垣みちよ（保健師）

同

栗正裕子（管理栄養士）

p50

「健診結果をお返しします。

お手数ですが、足をお運びください」

～君津市の取り組み～

取材・文 編集部

p60

特定健診・保健指導を機会に人材育成とまちづくり

～日南市の取り組み～

文・写真 西内義雄（フリーライター）

p70

国保ヘルスアップ事業「メタ防クラブ」

厳しい財政事情の下で「平成20年度から自前」の準備

～岩手県九戸郡軽米町の取り組み～

岩手県九戸郡軽米町役場健康福祉課 中里早苗（保健師）

p80

RUPO「結果を出す」保健指導研修会

自ら実践し、興味をかきたてる工夫を

～高知大学医学部・都竹茂樹准教授が説く行動変容の極意～

文・写真 西内義雄（フリーライター）

特定健診・保健指導がスタートして半年がたった。予想されたように、各地から保険者・自治体の苦戦が伝えられている。すでに、「1年目は予行演習。2年目、3年目と年を追って良くしていくべきよい」との声も上がっている。特集では厚生労働省保険局国民健康保険課の掛川秋美専門官に、気になる現状と課題をまとめていただいた。併せて準備事業をステップに、健闘を続ける自治体の取り組み事例と、指導者のための研修会を紹介する。

特
集

見えてきた! 特定健診・保健指導の 現状と課題



●文・写真 西内義穂(フリーライター)

最北の島を選んだのは 偶然の出会いだった

「不便で何もないところ」と
思っていたのが…



利尻～礼文のフェリーにて



礼文島から見た利尻富士

今回は日本最北端の島、礼文島のひよこさんだ。東京からの距離は第一回で訪れた沖縄の与那国島ほど遠くないものの、羽田～新千歳～利尻まで空路で移動しても最後の利尻～礼文はどうしても船に頼らざるを得ない。乗り継

ぎもスムーズにいかず、当日中に島に着くのが精一杯。別ルートで東京～稚内を飛んで船に乗る方法もあるが、こちらではどんなに朝早く東京を出ても、当日中に着くことができなかつた。つまり、どんなに頑張っても移動だけで一日使うわけで、取材予定日の前日に東京を出発することになった。

*与那国島は、羽田～石垣～与那国島と、すべて空路で移動でき、早朝に出れば遙に到着できた。

ひよこさんと最初に会ったのは現地ではなく新千歳空港だ。遅い夏休みで旅行を楽しみ、取材前日に島に戻る途中とのことで、偶然同じ飛行機に乗ることが打ち合わせの段階で分かっていた。



利尻のフェリーターミナル待合室にて

こうして空港内のロビーで連絡を取り合い、お互い大きな荷物を持ったまま出会ったのが礼文町役場町民課の吉田早記さんだ。以後、利尻空港で同じ飛行機、到着後もバスで港に移動し、礼文島行きの船に乗り込んだ。と、書くとスムーズに移動したようと思うかもしれないが、実はかなり大変だった。というのも、利尻島～礼文